

### 子どもの本だな 133

このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

#### もりのへなそつる

わたなべ しげお さく  
やまわき ゆりこ え (福音館書店)

ある日、てつたくんとみつやくんの兄弟は、画用紙に書いた地図を持って森に探検に出かけました。薄暗い森を進んでいくと、太くて大きな木の根元に、赤と黄色のしま模様の大きな卵が転がっていました。卵を草や葉っぱでかくして帰りますが、次の日、そこには変なものがありました。カバのような顔にキリンのように長い首、背中からしっぽにはとげとげがあつて、体は赤と黄色のきれいなしま模様。その変なものは、「へなそつる」といいました。

3人はおにぎりを食べると、へなそつるの頭としっぽでシーソーをしたり、メリーゴーランドのようにぐるぐる回ったりして遊びました。

秘密の森でのびのびと遊ぶ子どもたちの様子が、優しい線で描かれた挿絵とともに読む人に温かく伝わります。読んでもらえれば4歳から。

(永富)

### 図書館の本棚 461

#### メモント・モモ 豚を育て、屠畜して、食べて、それから

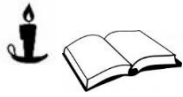
八島 良子 著 幻戯書房 (645.5)

著者は、東京の美術大学を卒業した2年後の2017年、広島の高島である百島に移住し、知り合いのアートセンターで仕事を始める。1周が約10キロ、人口は約400人の小さな島で、気がつけば3年の月日が経っていた。ゆつたりと時が流れる環境で、自身のアート制作が思うように進まないストレスを抱えながら、今の自分にできることは何かを、ぼんやりと模索しているときに、国や宗教によって、豊かな象徴でありながらタブーの根源にいる豚に強い関心を持った。過去にポークステーキを食べて、肉に拒否反応を示した経験がある著者。「なぜ拒絶したのか」。食肉に対する消化不良を解消するために、豚を育て、その運命に寄り添い、自らの手で殺して、食べるまでの、豚の生と死に真剣に向き合う、アートプロジェクトに挑むことを決心する。

コロナ禍の2020年4月に、養豚場から譲り受けた、三元豚の雌豚が百島にやってきた。名前は「モモ」。著者は、モモの食料の調達から排泄処理、小屋の清掃等のすべての世話を、周囲の協力を得ながら行い、屠畜するまでの333日間、毎日記録した。モモがすくすくと成長していく喜び、思うように動いてくれないことへの苛立ち、仕事で数日間会えない寂しさ等、モモを愛情深く育てる様子が記されている。その一方で、屠畜方法で行政と折衝を重ね、自家用屠殺を行いたい著者と、安全衛生上の観点から、屠畜場に連れていくことを勧めて、意見を曲げない行政とのやりとりも、記されているのであった。様々な問題を掻い潜り、2021年3月、自家用屠殺をやり遂げ、協力者とモモを食べた。著者にとって、モモは家族のような存在だったと思う。その証拠に、たくさんのモモの写真が掲載され、愛しさが溢れ出ている。大切に思うが故に苦しむ著者は、「生と死」をとて強烈に感じていたろう。モモと出合うまで、ただ漠然と生きてきた著者が、「モモの命を通して見えた世界は美しかった」と述べている。貨幣価値に代え難い経験をした著者だからこそ言える言葉であり、モモを決して忘れないという強い意志が伝わってくる。(竹田)

**お知らせ**

毎週土曜日に  
「おはなしの時間」  
を開いています。



1月の おはなし	小さい人 (4歳~小学2年生) 11:00~11:30	大きい人 (小学3年生~中学生) 11:30~12:00
4日(土)	だめといわれてひっこむな	旅学問
11日(土)	あなのはなし	パンドラ
18日(土)	ものいうたまご	十二のつきのおくりもの
25日(土)	にせ本尊	ゆうかんな靴直し

**1月の開館日**

日	月	火	水	木	金	土
			×	×	×	4
5	6	×	8	9	10	11
12	13	×	×	16	17	18
19	20	×	22	23	24	25
26	27	×	29	30	×	

**2月の開館日**

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	×	5	6	7	8
9	10	×	×	13	14	15
16	17	×	19	20	21	22
23	24	×	×	27	×	

▶ ×印は休館日  
 ・祝日の振替休館  
 1/15、2/12、2/26  
 ・館内整理日  
 1/31、2/28

※閉館時は返却ポストをご利用ください。

▶ 開館時間：  
 10:00~18:00  
 ※金曜日のみ  
 10:00~20:00

1月	2月	1・2月の移動図書館(いずれも木曜日です)				
9日	6日			<b>福地(三反長)</b> 地域内 14:30~ 14:50	<b>米田</b> 公会堂 15:00~ 15:20	<b>竹広南</b> 公民館 15:30~ 15:50
16日	13日			<b>原池団地</b> 公民館 15:00~ 15:20	<b>山田</b> 掲示板前 15:30~ 15:50	<b>原</b> 太田東地区 農村交流 センター 16:00~16:20
23日	20日	<b>広坂</b> 公民館 10:30~ 10:50	<b>上太田</b> 公民館 11:00~ 11:20	<b>塚森</b> 地域内 15:00~ 15:20	<b>太子 ニュータウン</b> 公民館 15:30~ 15:50	<b>吉福</b> 公民館 16:00~ 16:20



**地下水**

「メトロポリタン美術館」と聞くと、いつも浮かぶ歌がある。NHKみんなのうた「メトロポリタン美術館」(メトロポリタンミュージアム)だ。こういう人は多いのではないだろうか。

メトロポリタン美術館を検索すると、必ずこの歌も出てくる。『クローディアの秘密』(カニグズバーグ作 岩波書店)に着想を得て作られたらしい。姉弟が「トランクがわりにしたバイオリンとトランペットのケース」を持って家出をし、「メトロポリタン美術館」でこっそり生活していると、「天使の像」に出会って…。読むと、面白いほど歌詞と重なる。先月書窓で紹介した『メトロポリタン美術館と警備員の私』(パトリック・ブリングリー著 晶文社)で、美術館内の様子やそこで働く人々の話を読んでいた私にとってはより一層楽しめる本だった。

この歌が好きなのはこの2冊を読むべきなのでは?と書いていたら、書窓を読んだ友人Yから「脳内でコレ再生された。」と歌の動画付きメールが送られてきた。やっぱりそうだよねと笑ってしまった。友人にはこの2冊をぜひ紹介しようと思う。(池之上)